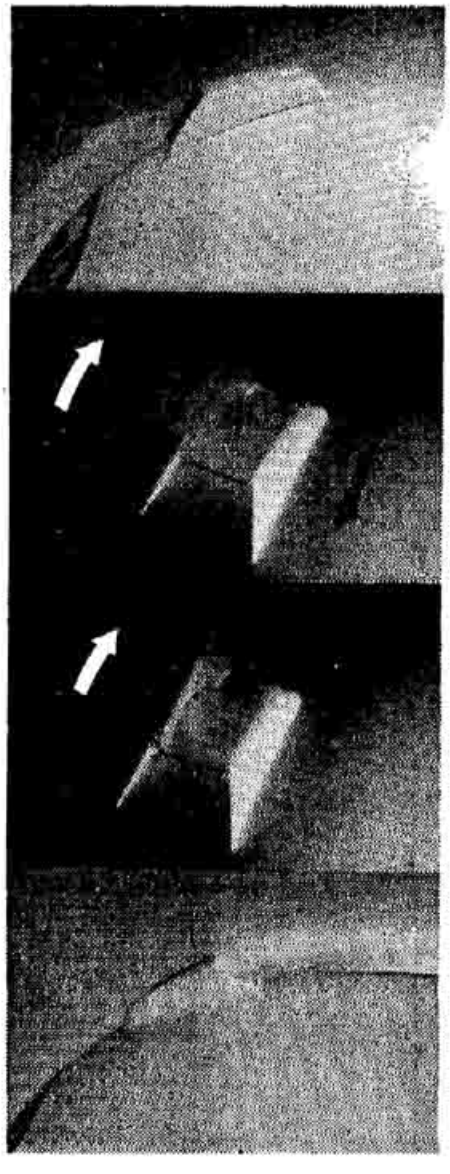
APRIL 1990 VOL.24

ARAI NEWS

■アライ製品が頑固なまでに頑丈に作られていることは、ベンチレーションシステムひとつとっても確認できます。まず、アライ独自のブローベンチレーション。安全性に大きな影響を及ぼす前頭部の帽体と緩衝体には穴を開ける事なく、それ以上の効果をもたらしています。そして、インダクションポッド取り付けや水抜きに使用するドレイン穴は、過去の転倒例の中でもっとも当たる確率の少ない頭頂部を選び、しかも厳しい貫通テストも余裕を持ってパスする補強が施こされています。

■このドレイン穴に取り付けるインダクションポッドとブローベンチレーションの組み合わせが、数多くのヘルメットの中でも、最も有効なベンチレーション効果をもたらしてくれるものといえましょう。でも、こうしたヘルメットの前面から空気を取り入れる方法にもまったく問題がないわけではありません。それは、レース中など、ストレートでカウルの中に上体をすっかり伏せてしまうとインダクションポッドやブローベンチレーションの効果が半減してしまうことです。

■特に夏場のレースでは、ベンチレーション効果の善し悪しが走りに大きな影響を与えてしまいます。各ライダーともそれに頭を悩ますわけですが、そんな時に、「ダクトを後ろ向きにつけたらどうだろうか。」という提案がレースサービスのスタッフからだされました。ストレートで伏せた際の負圧を利用してヘルメット内部の空気を吸い出すというのが、彼の発想です。



■早速、後ろ向きにしたインダクションポッドで走ってみると、ストレートで上体を伏せている状態で、確かにブローシャッターからの風が後方に吸い出されるような感覚があり、ダクトを前方に向けているときよりも効果が感じられました。その後、各レーサーに、ダクトの方向を選んでもらったところ、好みによって、前方、後方に分かれました。一方、一般ライダーの方々からも、ユーザー様からも、なぜ、アライを使用するレーサーの中にインダクションポッドを逆につけているライダーがいるのかと多くのご質問をいただきました。

■確かに、ヘルメットが風に向かっているときにはダクトは前方に。カウルの中に伏せているときにはダクトを後方にすれば、効果は倍になります。だからといって、今までのインダクションポッドでは、一度取り付けたら、向きを変える事はできません。それを解決したのが、新発売のラパイドμ(ミュー)とアストロRio(リオ)に標準装備となっているIE(Intake & Exhaust)ダクトです。新開発のIEダクトは走行条件により、ワンタッチで回転させて、ダクト方向を前方にも後方にも向けることができます。もちろんシャッター機構と流量調整も組み込まれている優れものです。限りない安全性をもとめている中から生まれた遊び心かも知れません。今は、μとRioでしか、その効果を試すことはできませんが、夏が近付く頃にはオプションでも発売しようかと考えています。興味のある方は、店頭でμやRioのIEダクトに触れてみたらいかがですか。

強さが生んだ余裕のベンチレーション
IEダクト

(株)アライヘルメット
〒330 埼玉県大宮市東町2-12
TEL(048)641-3825〜7

●アフターサービスの窓口は品質管理課です。
製品の事なら、お気軽にご相談ください。
直通 TEL(048)645-3661